

## 高松市公共施設再編整備計画(案)3次についてのパブリックコメント実施結果

本市では、平成28、29年度に策定した高松市公共施設再編整備計画(案)1次、2次に引き続き、平成30年7月17日(火)から8月17日(金)までの期間、高松市公共施設再編整備計画(案)3次についてのパブリックコメントを実施しました。

公共施設再編整備計画(案)は、公共施設全体に対する取組の考え方及び個別施設の今後の在り方の2点についてお示しし、平成28年度策定分を1次として、以降、2次、3次と継続して策定を進め、最終的に計画全体を取りまとめるものです。本パブリックコメントでは、計画案を公表し、この案に対して市民の皆様から提出いただいた御意見を参考とさせていただくものです。

※提出いただいた意見は趣旨を変えない範囲内で、簡略化又は文言等の調整をしているものがあります。

- (1) 意見総数 1件(1人)
- (2) いただいた御意見(要旨)とそれに対する市の考え方

No.	寄せられた御意見等	寄せられた御意見等に対する考え方
1	行政機関として未来の子供たちに負の遺産を遺さないよう、一部の市民の感情論に偏ることなく、未来志向で再編整備計画の立案・実行をお願いします。ここでいう負の遺産とは、将来財政の過大な負担、ファシリティマネジメントの結果に基づく判断で廃止と方向づけられた施設の存続などを指します。	この度「高松市公共施設再編整備計画(案)3次」に関するパブリックコメントを実施しましたところ、貴重な御意見をお寄せいただき誠にありがとうございます。 平成28年度から策定を進めてまいりました「高松市公共施設再編整備計画(案)」は今回の3次分の策定により、再編対象とした827施設全てについて、今後の方向性等を定めることができました。 しかしながら、計画策定の成果は「高松市ファシリティマネジメント推進基本方針」に掲げている、31.6%の削減目標に対し、再編整備計画(案)3次における達成率は0.6%、1次～3次全体でも3.1%に留まる結果となっております。 今回の再編による総量削減が目標値と大きく乖離した要因は、各施設とも今後の方向性を定めるために実施する「施設評価(客観的)」の段階におきまして、公共施設の「公共性」はハードではなくソフトであるため、本来は、施設(ハード)と機能(ソフト)を完全に分離した評価を実施したうえで、再配置の検討を進めるべきでございますが、ほとんどの施設の現状として、他にソフト事業を吸収できる代替施設がすぐには存在しないことから、やむを得ず、サービス供給状況や運営費等のコストを加味した総合的な評価結果に基づき再配置の検討を進めることとしたため、継続使用とした施設が多くなっており、御意見にもございますような集約化・複合化、配置・規模の見直しについての具体的な検討に至らなかったものであると存じております。
2	1の意見に反するかもしれませんが、反対の意見に汲むべき点があれば、耳を傾け、より良い計画・実施を行っていただきたいと思います。	なお、公共施設は、時間の経過とともに、劣化状況や利用者のニーズが刻々と変化いたしますことから、本計画は、原則として5年ごとに見直しを行うこととしており、また必要な施設は5年経過前でも見直しを行い、具現化できるものから、廃止や用途変更等の工程を示す再編整備実施計画を策定し、ファシリティマネジメントの取組効果の早期発現をめざすこととしておりますので、廃止等の結論を先延ばしにしているものではございません。
3	高松市公共施設等総合管理計画には、「パターン1：今後50年間、定率で削減していく場合、44.5%の削減が必要」「パターン2：ファシリティマネジメント導入後15年間で削減する場合、31.6%の削減が必要」とあります。今回の再編整備計画(案)3次では、廃止の方向で検討している案件が少ないように思えます。15年後に先延ばしをしているようにも感じました。継続か廃止だけでなく、「継続・廃止を検討」という項目で15年間の継続期間を設定し、地域や関係機関と検討する時間を設けてはいかがでしょうか。	本市におきましては、今後、少子・超高齢社会の進展や生産年齢人口の減少に伴い、財政規模の大幅な縮小が予測される現状にございますことから、公共施設の総量を抑制しつつも、複合化・多機能化による再編を進めることが喫緊の課題であり、地域の活性化やにぎわいの創出による魅力あるまちづくりをめざしていきたく存じます。
4	【小、中学校の施設統合について】 再編整備計画(案)3次の資料の中で小学校の児童数が少ない、かつ比較的近い地域に小学校が隣接している小学校がありました。 将来的な施設の老朽化・少子化に伴って、高松第一小学校や新番丁小学校のように統廃合の検討をすべきではないかと思えます。	その実現に向け、今後は先進都市の事例も踏まえながら、まずは本市保有資産の有効活用等の検討を行うとともに、官民連携による複合化等を進める手法として、アイデアの募集、民間資産の活用、民間資金・ノウハウを活用した施設整備・運営などの導入に向け積極的に取り組んでまいりますので、引き続き、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。
5	【プール授業の外部委託】 将来、小、中学校のプールなどのように一定期間しか使わずランニングコストのかかる施設が老朽化していきます。他の自治体のそうした問題の対応として実績があるというニュース記事を拝見しました。老朽化による小学校のプールを廃止し、近在のスイミングスクールと委託契約を結び、児童をバスで送迎して授業を行っている事例です。難しいかも知れませんが、こうした事例に対する検討を進めていただければと思います。 ※参考記事「学校プール全廃の自治体も。スイミングスクールや市民プールでの授業が広まる。」 <a href="https://www.huffingtonpost.jp/2018/07/12/scholpoolclosed_a_23480113/">https://www.huffingtonpost.jp/2018/07/12/scholpoolclosed_a_23480113/</a>	